

手撒式ハンドスプレー(散水ノズル)の使い方

(注 意 事 項)

校庭、グラウンド、競技場、等で使われる、ハンドスプレーは、家庭で使用するビニールホース(口径13ミリ)のものとは、全く違って、高圧用でホースの口径も40㎜又は50㎜のものを使い、毎分の送水量も家庭用水道は、10ℓ前後であるのに対し、200ℓ前後から600ℓ位迄の水量が送水されています(吐出水量は、ポンプの能力やノズルの噴出口径の調節によって変化しますが)即ち、水量は、20倍～60倍位の量にもなり水圧についても家庭用水道とは、比較になりません。

従って、下記の使用上の注意事項を守りませんと事故が起きますので、**厳重な注意が使用上必要です。**ホース補修用のホースバンド及び継ぎ手(金具)は常備していますので御用命ください。

- 1)、ハンドスプレーと連結されているホースとは、常に真すぐ(一直線)になるようにして散水を行うこと。散水の際は、前方に人がいないかよく見て散水して下さい。
- 2)、散水しながら移動する場合は、散水に気をとられがちなので、ホースが曲がらないように特に注意すること。
- 3)、移動するとき(散水する場所を変えるとき)は、散水しながらの場合はハンドスプレーの柄を左手で持ち、右手は、ホースを持って移動します。
散水を止めて(水を止めて)移動するときは、ハンドスプレーを、ホースからはずして別々にして運びます。特にホースの中には、未だ残水がありますので、ホースの中の水を切ってからホースを移動させて下さい。
ポンプが稼動している場合は、ホースの中の水の重量は非常に重く、その上高水圧がかかっておりますので少しの移動はできますが大巾に移動すれば、重量と水圧でホースに異常な無理がかかり、ホースが切れる原因となります。ましてハンドスプレーの柄だけを持って、ホースを引張って(引きづりながら)移動すれば、どんな丈夫なホースでも接続金具のものとところでホースは弱くなったり切れたりすることになります。
残水が未だホースの中に多量にあることに注意する。
- 4)、ハンドスプレーの柄を振り廻して散水してはいけません。ホースが折れ曲り切れ易くなるばかりでなく継手が破損する事故もまれにあります。
- 5)、ハンドスプレーの先端のノズル部分を回転させて水をしばって拡散する(散水範囲の中を広げる)ことを極端にしますと、加圧ポンプ使用の場合には、これもホースが切れ易くなったり、継手とホースとの接続のところがはずれたりする原因となります。

当社のスーパーケミカルホースを使用した場合は、材質や品質が完全に検査され耐久力も抜群に特別に製造されておりますので、短期間でホースが切れる場合は、上記のような事故以外には考えられませんので誠に僭越ですがハンドスプレーの使い方には、充分御注意下さい。

余談ですがイタズラやスパイク等にて踏めば当然穴が開きます。

尚ハンドスプレーは、あくまで補助的な散水具で校庭、グラウンド等の広い面積の一部分(部分的に)を散水するための補助散水具で、広い面積を散水するには、大型散水機による三光散水システム(移動式・固定着脱式)により行って下さい。即ち、広い面積をハンドスプレーで行うのは無理で、その無理がホースの破損ということになるわけです。



三光産業株式会社

〒158-0082 東京都世田谷等々力6-3-21

電話 03(3703)4554 FAX 03(3703)4557